

決算説明資料



※予測に関する注意事項

・本資料(業績計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて作成しておりますが、リスクや不確実性を含んでおります。

2016年4月
株式会社タダノ



【会社名】	株式会社タダノ(1948年8月24日設立)創業者 多田野 益雄 1955年国内初の油圧式トラッククレーンを開発	
【代表者】	代表取締役社長(CEO)多田野 宏一	
【本社】	香川県高松市新田町甲34番地	
【主な事業】	建設用クレーン、車両搭載型クレーン、高所作業車の製造販売	
【事業所】	東京事務所[墨田区]、高松工場[高松市]、志度工場[さぬき市]、多度津工場[多度津町]、千葉工場[千葉市]	
【拠点】	(日本)10支店、23営業所 (海外)北京事務所[中国]、中東事務所[UAE]	
【資本金】	13,021百万円	【株式】発行済 129百万株 株主数 7,275人(16年3月末)
【売上高】	209,426百万円(15年度)	
【従業員数】	連結 3,433人、単独 1,505人(16年3月末)	
【関係会社】	(日本)子会社 11社、関連会社 1社 (海外)子会社 18社、関連会社 2社 ㈱タダノアイメス タダノ・ファウンGmbH、タダノ・ファウン・シュタールバウGmbH[独] ㈱タダノアイレック タダノ・ユーケー Ltd. [英] ㈱タダノエステック タダノ・フランス SAS [仏] (2月設立) ㈱タダノエンジニアリング タダノ・アメリカ・ホールディングスInc.、タダノ・アメリカCorp.、タダノ・マンティスCorp. [米] ㈱タダノテクノ東日本 タダノ・パナマS.A.[パナマ] ㈱タダノテクノ西日本 タダノ・ブラジル・エキバメントス・デ・エレヴァサオンLtda.[ブラジル] 太平機工㈱ 京城多田野(北京)液圧機器有限公司、金天利多田野(河北)金屬加工有限公司 ㈱タダノ教習センター 多田野(北京)科貿有限公司 [中国] ㈱タダノ物流 韓国多田野株式会社 [韓国] ㈱タダノシステムズ タダノ・タイランドCo.,Ltd.、タダノ・タイ・パーツ・アンド・サービスCo.,Ltd[タイ] ㈱タダノビジネスサポート タダノ・アジアPte.Ltd.[シンガポール] タダノ・インディアPvt.Ltd.[インド] タダノ・オセアニアPty.Ltd.[オーストラリア] 北起多田野(北京)起重機有限公司 [中国] 台湾多田野股份有限公司 [台湾]	

15年度決算のポイント

(単位:百万円)

	14年度		15年度		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	204,059	100.0%	209,426	100.0%	2.6%
営業利益	29,462	14.4%	31,062	14.8%	5.4%
経常利益	30,357	14.9%	30,680	14.6%	1.1%
親会社株主当期純利益	19,483	9.5%	19,621	9.4%	0.7%

1株当たり配当金	中間	11.00円	中間	13.00円
	期末	12.00円	期末	13.00円
	年間	23.00円	年間	26.00円

	14年度	15年度
設備投資額	3,905百万円	4,572百万円
減価償却費	2,589百万円	2,793百万円
為替レート(USD)	105.85円	121.05円
為替レート(EUR)	140.42円	134.31円

※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

※為替レートは1-12月期中平均レート(海外子会社12月決算のため)

【15年度の経営方針】

- ①コアバリューの追求「安全・品質・効率」
- ②中期経営計画(14-16)2年目の取り組み
- ③市場変動への備え

◆3期連続で過去最高の売上高・利益を更新

◆5期連続の増収増益

- ・日本・海外での拡販
- ・為替の影響
- ・原価低減への取り組み

◆日本向け売上高、海外向け売上高ともに増加

⇒日本向け売上高 1,005億円→1,049億円(+4.4%)
建設用クレーン、高所作業車が増加。

⇒海外向け売上高 1,035億円→1,044億円(+0.9%)
需要減少の中、大型製品の拡販により増加。
過去最高の海外向け売上高。

◆海外売上高比率 50.7% → 49.9%

◆利益は増加

営業利益	294億円	→	310億円
経常利益	303億円	→	306億円
当期純利益	194億円	→	196億円

損益計算書(対前期比較)



(単位:百万円)

	14年度		15年度		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
売上高	204,059	100.0%	209,426	100.0%	5,366
売上原価	144,219	70.7%	146,298	69.9%	2,079
割賦販売利益	1	0.0%	-91	-0.0%	-92
売上総利益	59,841	29.3%	63,036	30.1%	3,194
販管費	30,378	14.9%	31,973	15.3%	1,594
営業利益	29,462	14.4%	31,062	14.8%	1,600
営業外損益	894	0.4%	-382	-0.2%	-1,277
経常利益	30,357	14.9%	30,680	14.6%	323
特別損益	-27	-0.0%	-563	-0.3%	-535
税引前当期純利益	30,329	14.9%	30,117	14.4%	-212
法人税等	10,803	5.3%	10,608	5.1%	-194
非支配株主当期純利益	42	0.0%	-113	-0.1%	-155
親会社株主当期純利益	19,483	9.5%	19,621	9.4%	137

【増減のポイント】

◆売上原価率 70.7% → 69.9%

- ・販売価格の維持改善、コストダウンによる原価低減や為替影響により、売上原価率は、前期比0.8%ポイント改善。

◆販管費 1,594百万円増加

- ・変動費減少 Δ 359百万円
- ・人件費増加 + 916百万円
- ・その他諸経費増加 +1,037百万円

◆営業外損益

- ・営業外収益 1,731百万円 → 623百万円
- ・営業外費用 837百万円 → 1,006百万円

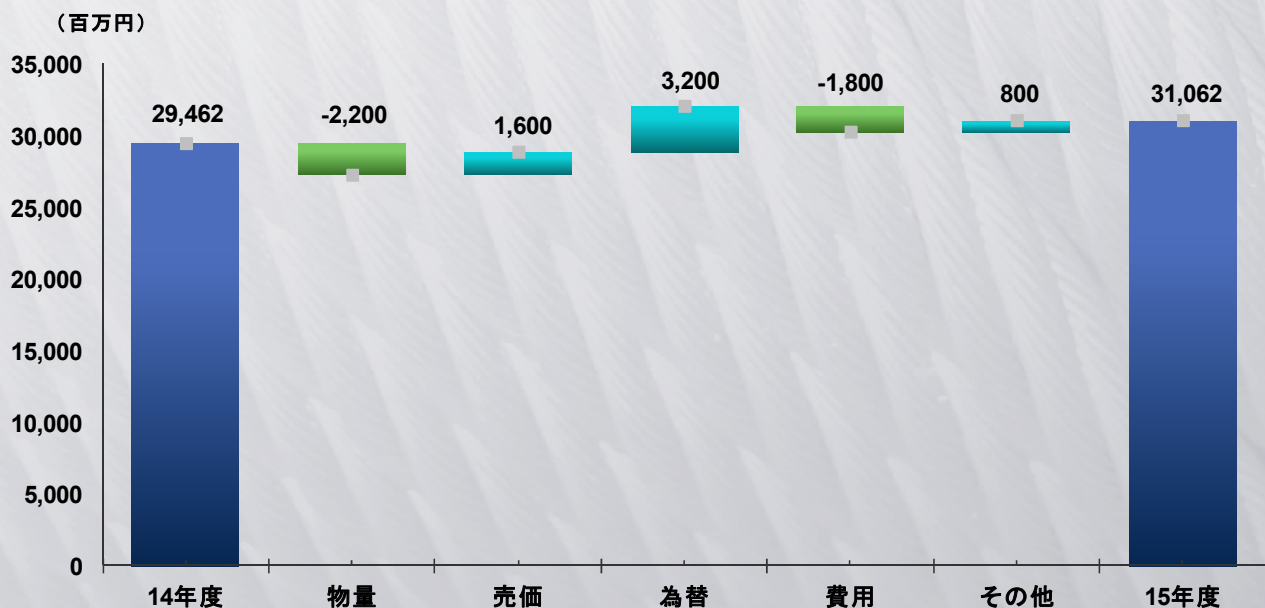
◆特別損益

- ・特別利益 44百万円 → 517百万円
- ・特別損失 71百万円 → 1,080百万円
- 投資有価証券売却益 511百万円
- 関係会社出資金評価損 692百万円
- 減損損失 283百万円

損益計算書(営業利益の増減要因)



売価改善、為替影響により、営業利益は16億円の増加。



貸借対照表(対前期末比較)



(単位:百万円)

	14年度		15年度		比較増減
	金額	比率	金額	比率	
手許資金	61,533	27.5%	73,618	31.3%	12,084
売上債権	52,328	23.4%	51,143	21.7%	-1,184
たな卸資産	51,384	23.0%	53,021	22.5%	1,637
その他	7,250	3.2%	7,699	3.3%	448
流動資産計	172,497	77.1%	185,483	78.8%	12,986
有形固定資産	38,292	17.1%	38,982	16.6%	689
無形固定資産	1,258	0.6%	1,187	0.5%	-71
投資その他の資産	11,560	5.2%	9,747	4.1%	-1,813
固定資産計	51,111	22.9%	49,917	21.2%	-1,194
資産合計	223,608	100.0%	235,400	100.0%	11,792

仕入債務	34,417	15.4%	35,845	15.2%	1,427
有利子負債	37,620	16.8%	36,869	15.7%	-750
その他	29,429	13.2%	27,889	11.8%	-1,539
負債計	101,467	45.4%	100,603	42.7%	-863
純資産計	122,141	54.6%	134,796	57.3%	12,655
負債・純資産計	223,608	100.0%	235,400	100.0%	11,792

【増減のポイント】

- ◆ **売上債権は減少**
523億円 → 511億円
⇒ 売上債権回転期間は改善
(14年度 93.6日 → 15年度 89.1日)
- ◆ **たな卸資産は増加**
513億円 → 530億円
(530億円のうちTFG分157億円)
⇒ たな卸資産回転期間は悪化
(14年度 91.9日 → 15年度 92.4日)
- ◆ **有利子負債は減少**
376億円 → 368億円
⇒ 短期 1億円増加 長期 8億円減少
- ◆ **ROA(営業利益ベース)**
13.9% → 13.5%
※中計目標値 : 16年度 13.0%以上
- ◆ **ROE** 17.5% → 15.4%

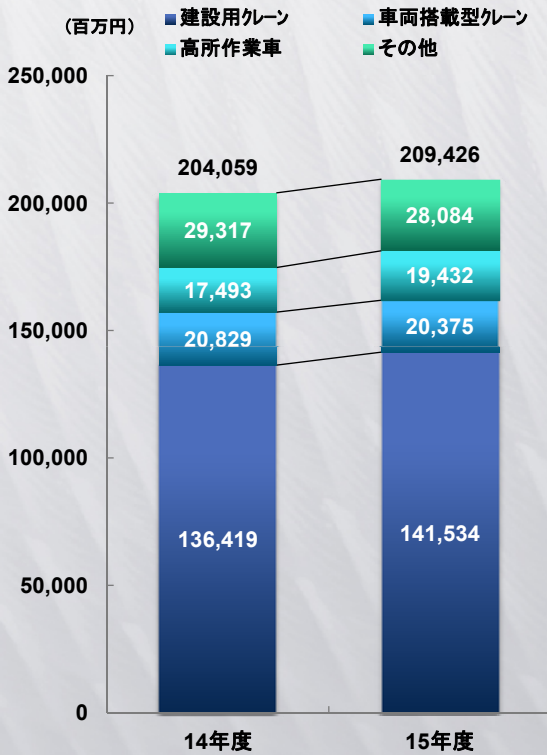
キャッシュ・フローの概要



営業活動キャッシュ・フローの大幅増により、総合キャッシュ・フローは118億円の増加。



製品別売上高



(単位:百万円)

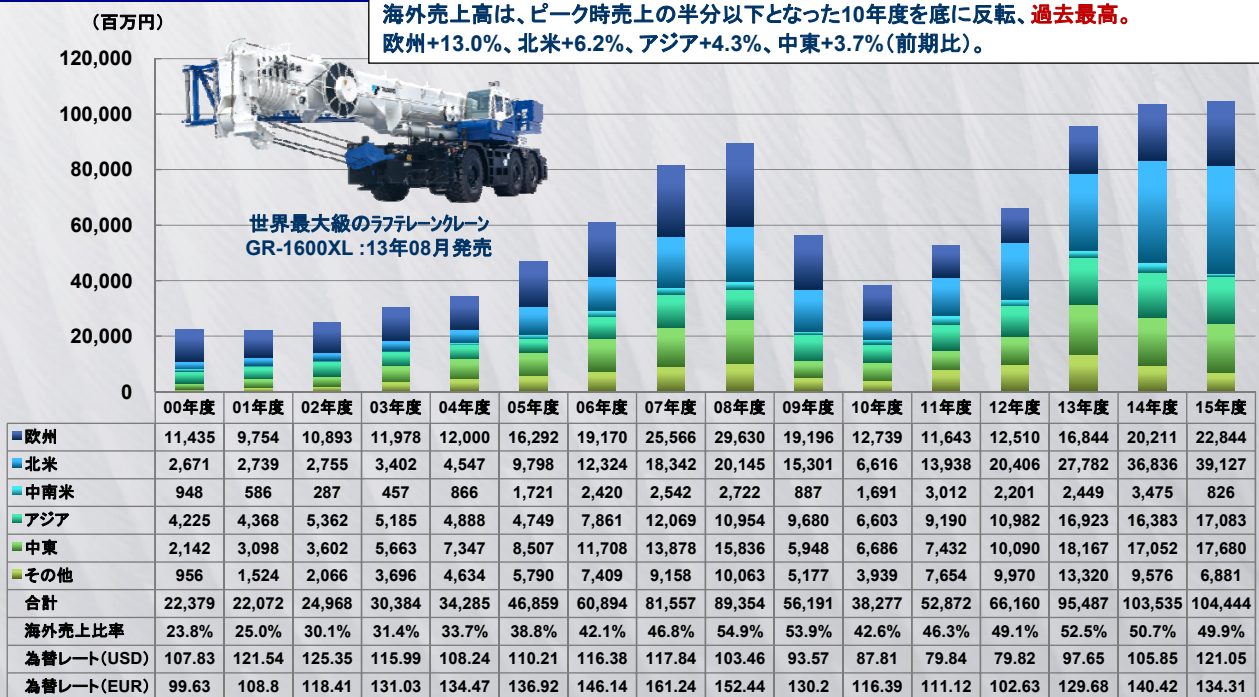
	14年度		15年度		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
建設用クレーン	136,419	66.8%	141,534	67.6%	5,114	3.7%
車両搭載型クレーン	20,829	10.2%	20,375	9.7%	-454	-2.2%
高所作業車	17,493	8.6%	19,432	9.3%	1,939	11.1%
その他	29,317	14.4%	28,084	13.4%	-1,233	-4.2%
合計	204,059	100%	209,426	100%	5,366	2.6%

◆海外売上高比率 50.7% → 49.9%

※建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

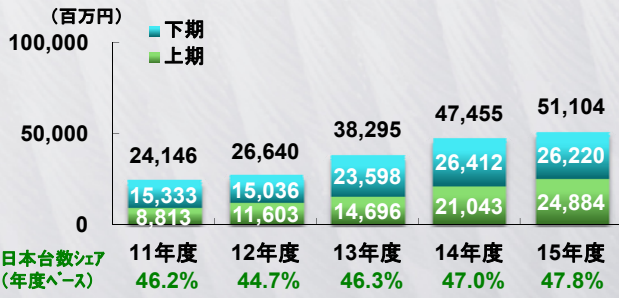
日本	47,455	51,104	3,649	7.7%
海外	88,964	90,429	1,465	1.6%

海外仕向地別売上高推移

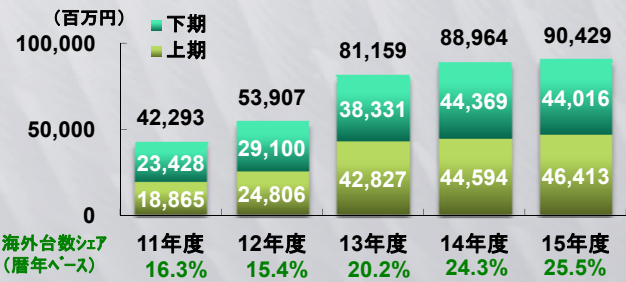


※・その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。
 ・為替レートは期中平均レート(海外子会社12月決算のため、通期1-12月平均)
 ・01年度以前はDMをEURに換算したものを表示しております。

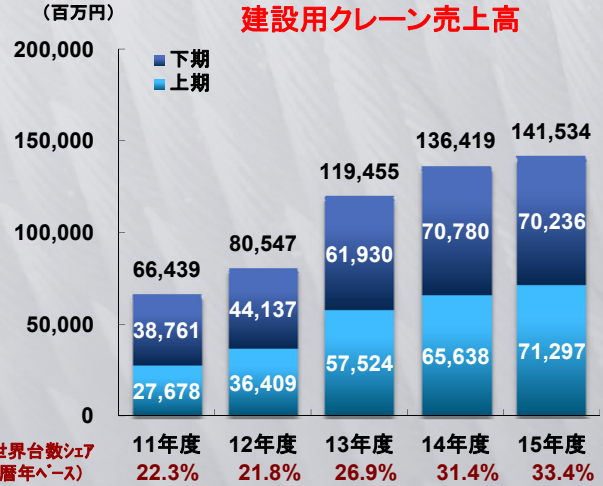
建設用クレーン売上高(日本)



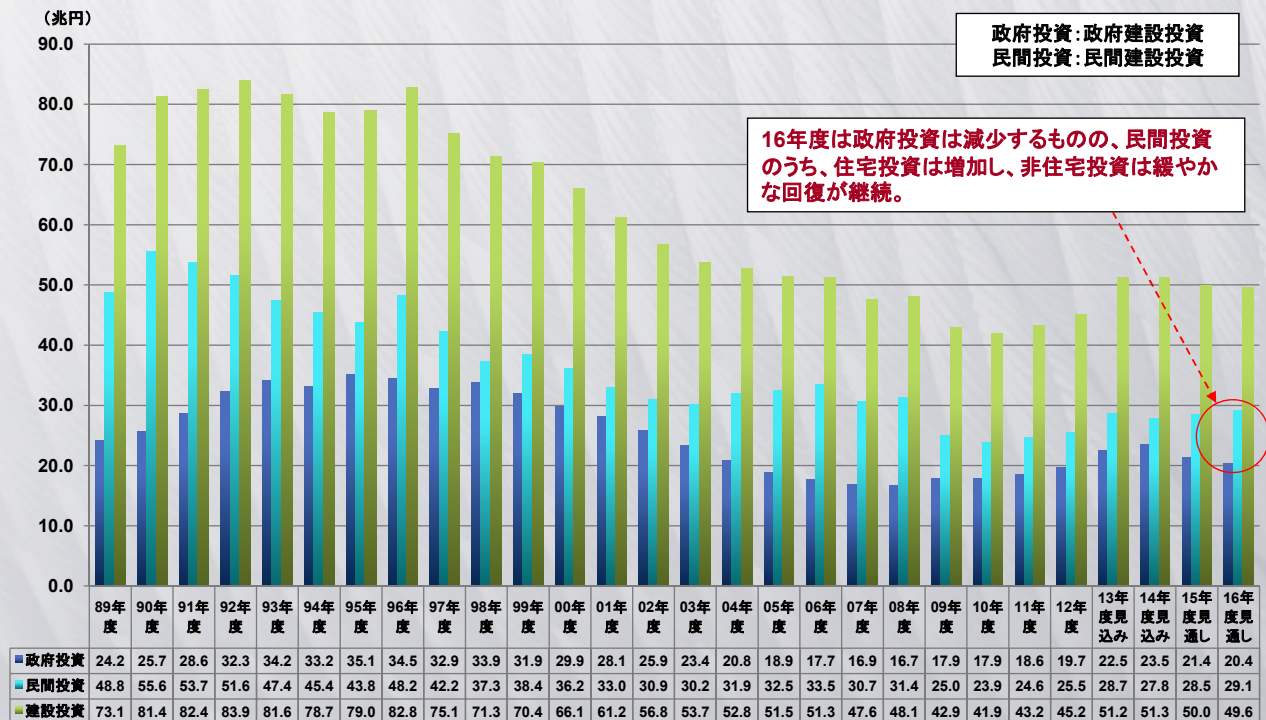
建設用クレーン売上高(海外)



建設用クレーン売上高

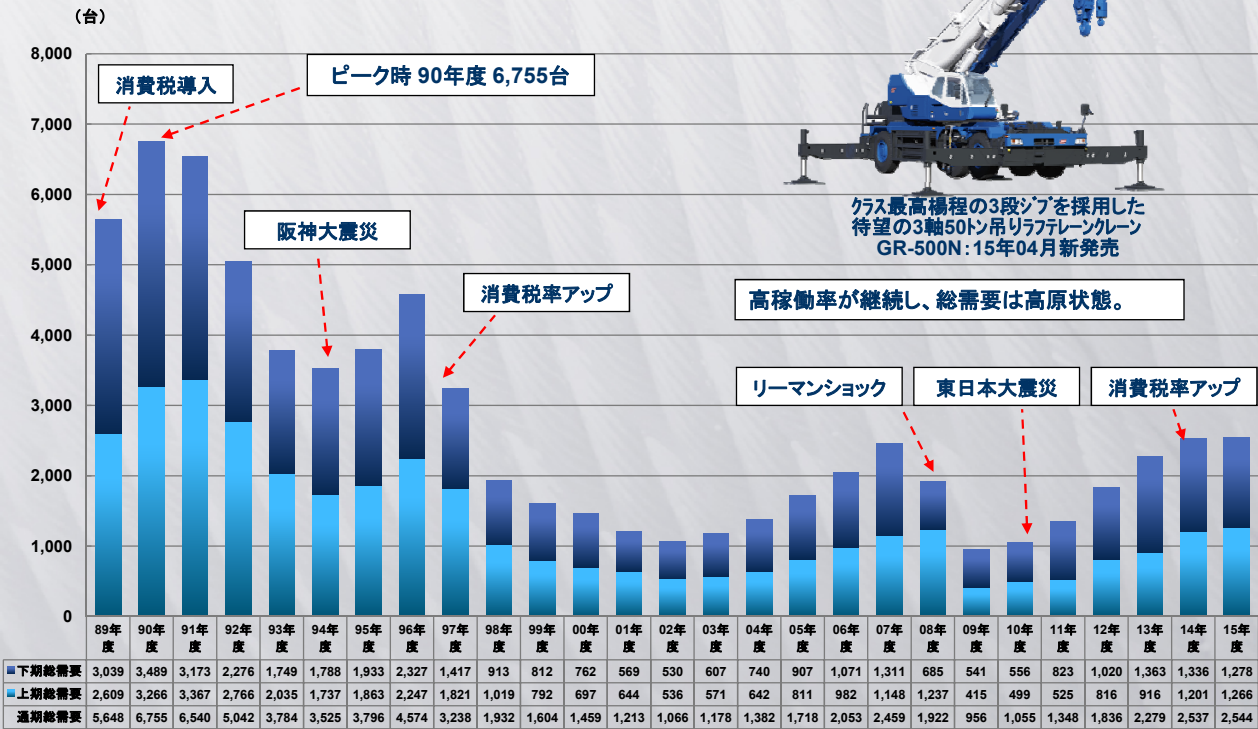


日本建設投資の推移と見通し



※ 数字はすべて名目建設投資。予測は、建設経済研究所の「建設投資の見通し」(16年4月25日発表)による。

建設用クレーンの日本総需要の推移



※ 数字は当社調べ。



建設用クレーン



日本シェア 47.0%→47.8%

油圧式建設用クレーン日本総需要 2,544台 (15年度、当社調べ) 前期比0.3%増

⇒ 需要が高原状態で推移するなか、拡販に注力。トン数シェア49.6%→53.7%。

日本向け売上高は511億4百万円(前期比 107.7%)

【ラフテレーンクレーン】

- ・日本建設用クレーンの中心機種
日本総需要の95%(北米総需要の60%)
- ・市街地の建築工事に欠かせない都市型クレーン
- ・コンパクトな車体で、狭小地でも性能発揮
(前輪、後輪共にステアリング可能)
- ・クレーンの運転席と自動車の運転席が兼用
- ・日本向け13~70t吊り 5機種
海外向け12~145t吊り 8機種
- ・日本は一般道走行
北米はトレーラー輸送



13年06月発売

【オールテレーンクレーン】

- ・日本では都市開発、高架・橋梁工事向けの大型クレーン
日本総需要の5%
(欧州総需要の89%)
- ・遠距離走行性に加え
小回り性にも優れる。
(ステアリングに特徴)



14年04月日本向け発売

- ・日本向け100~550t吊り 6機種(独TFG製造、タノ製造)
- ・海外向け40~400t吊り 10機種(独TFG製造)
- ・日本での一般道走行時には分解搬送が必要
欧州では分解走行不要



【トラッククレーン】

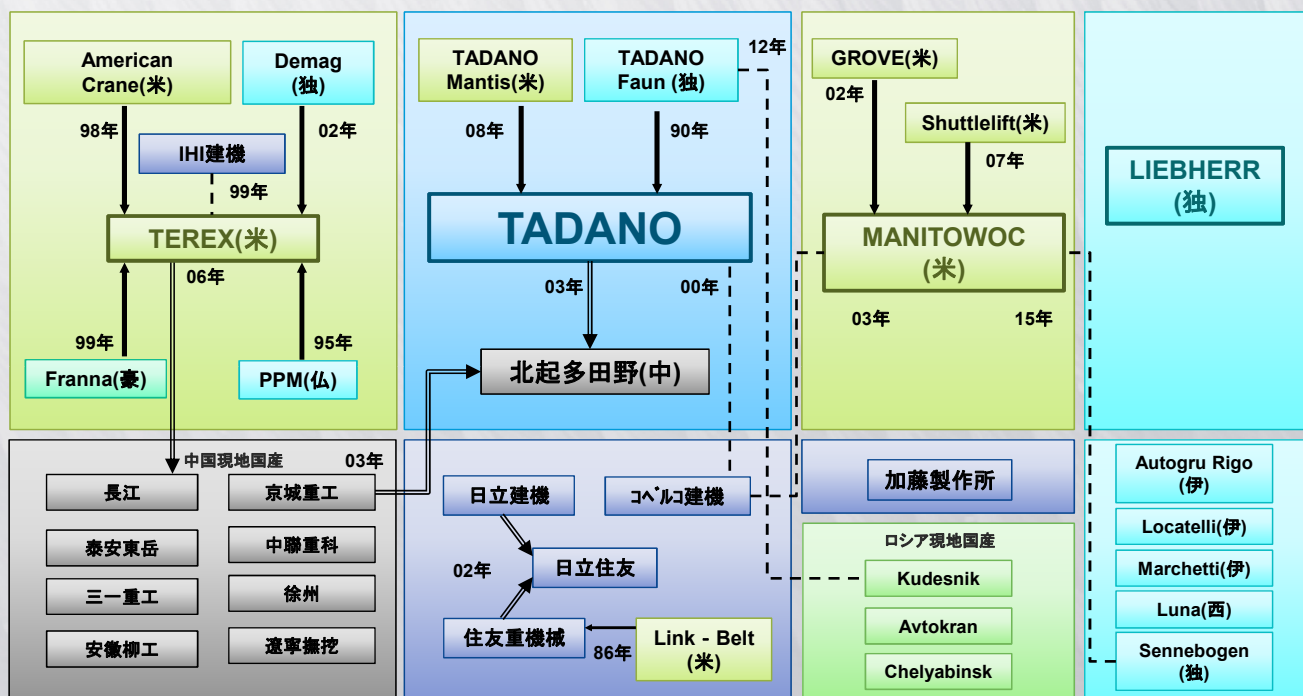
- ・走行性に優れたトラックに架装したクレーン。日本総需要は数万台、主に海外向け
 - ・遠距離走行性に優れる。
 - ・日本向け20t吊り1機種（タダノで製造）
 - ・海外向け35～80t吊り7機種（タダノ・TFG・北起多田野で製造）
- 北起多田野（中国）から35t、55tトラッククレーンの輸出に注力。



【建設用クレーンの共通事項】

- ・関係省庁：国土交通省（自動車の規制）及び厚生労働省（クレーンの規制）
 - 排ガス規制、騒音規制の強化、走行規制（オールテレーンクレーン等大型機種の分解搬送）の取締り強化
- ・日本での販売先：クレーン工事業（セネコンの一次・二次下請で、クレーン免許を有するオペレーター付でクレーンを現場派遣）
- ・国土交通省直轄工事における排出ガス規制：2012年4月から第2次基準値適合車の使用原則化
 - ⇒復興工事への影響を考慮し、規制強化を事実上延期
- ・日本向けRC 4次排出ガス規制
 - 原動機出力130kW以上 2016年9月以降 130kW未満 2017年9月以降
- ・北米向けRC排出ガス規制 Tier4 2014年1月以降（次期規制は未定）
- ・欧州向けAC排出ガス規制 Euromot IV 2014年1月以降（次期規制は未定）

クレーン業界図(油圧式クレーンメーカー・クローラクレーンメーカー)

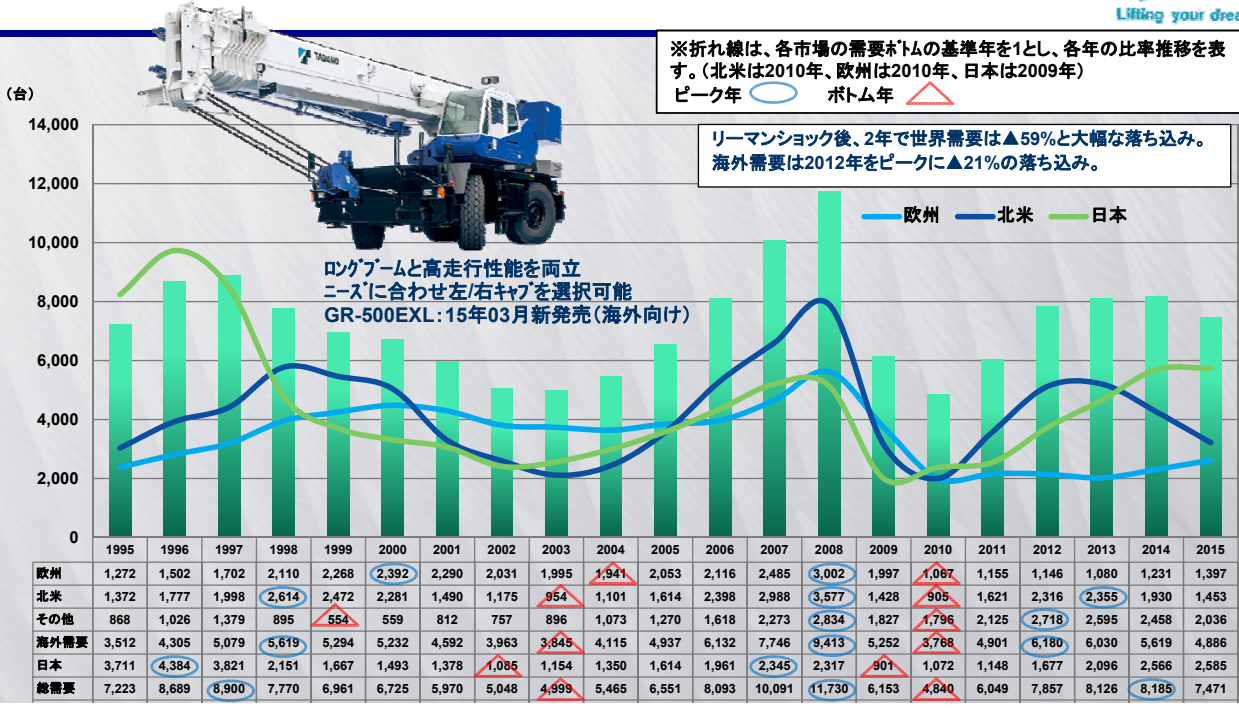


徐州=XCMG Xuzhou Construction Machinery Group, 中聯重科=Zoomlion, 三一重工=Sany, 安徽柳工=Liugong

* 日本建設機械工業会資料より、当社作成

→ 買収を示す。(数値はその年度)
 - - - 提携を示す。(数値はその年度)
 ==> 出資・JVを示す。

建設用クレーンの世界総需要推移(暦年ベース)



1. 海外市場はSYSTEMATIC/CEMA/FEM等の統計データより当社推計
2. 中国・ロシア国産の建設用クレーンは上記に含まず。

なお中国市場における中国国産の総需要推移は次の通り。

2009年約2万7千台、2010年約3万5千台、2011年約3万5千台、2012年約2万2千台、2013年約1万7千台、2014年約1万4千台、2015年約9千台。



建設用クレーン 地域別需要機種構成(暦年ベース)



世界シェア 31.4%→33.4% (世界総需要に中国・ロシア国産含まず) 当社 2,568台→2,495台
油圧式建設用クレーン 世界総需要 8,185台→7,471台 (15年1-12月、当社調べ) 前期比 8.7%減

■ TC
■ RC
■ AC

欧州 総需 1,231台→1,397台(+13.5%)
TC 43台・RC 106台・AC 1,248台
当社 190台→223台
(当社シェア 15.4%→16.0%)

日本 総需 2,566台→2,585台(+0.7%)
TC 9台・RC 2,441台・AC 135台
当社 1,202台→1,250台
(当社シェア 46.8%→48.4%)

北米 総需 1,930台→1,453台(△24.7%)
TC 226台・RC 873台・AC 354台
当社 411台→374台
(当社シェア 21.3%→25.7%)

中東 総需 878台→851台(△3.1%)
TC 75台・RC 501台・AC 275台
当社 372台→311台
(当社シェア 42.4%→36.5%)

その他 総需 597台→459台(△23.1%)
TC 19台・RC 181台・AC 259台
当社 168台→87台
(当社シェア 28.1%→19.0%)

アジア 総需 609台→539台(△11.5%)
TC 52台・RC 371台・AC 116台
当社 200台→234台
(当社シェア 32.8%→43.4%)

中南米 総需 374台→187台(△50.0%)
TC 18台・RC 75台・AC 94台
当社 25台→16台
(当社シェア 6.7%→8.6%)

※TCはトラッククレーン、RCはラフテレーンクレーン、ACはオールテレーンクレーンを表す。
数値は、当社推計。その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。台数・シェアは、前年同期からの変化を示す。



<欧州事業の課題>

オールテレーンクレーンのフルレンジ化、
欧州でのシェアアップと欧州域外への拡販

● 欧州グループ会社の概要

【TADANO FAUN GmbH】

90年に買収、資本金:45百万EUR 当社100%出資
所在地:ドイツ国バイエルン州
事業内容:建設用クレーンの開発・製造・販売
代表者:社長 アレクサンダー・クネヒト、従業員:621人
売上高の推移:

09年:270百万EUR/381台、10年:178百万EUR/213台、11年:199百万EUR/248台、12年:268百万EUR/294台、
13年:313百万EUR/329台、14年:308百万EUR/347台、15年:304百万EUR/376台

【TADANO FAUN Stahlbau GmbH(タダノファウンシュタルハウ)】

資本金:650千EUR(出資比率 TFG社 80%、アムロン10%、香西鉄工所10%)
設立:08年9月、所在地:ドイツ国バイエルン州TFG社工場内
事業内容:TFG社向け建設用クレーン部品(ジブ等)の製造
代表者:社長 ラルフ・ゾントーク、従業員:11人

【TADANO UK Ltd.】

14年4月に買収、資本金:2,000GBP TFG社100%出資
所在地:英国サウスヨークシャー州
事業内容:建設用クレーン等の販売、サービス
代表者:社長 トーマス・シラム、従業員:16人

【TADANO France SAS】

16年2月に設立、資本金:50千EUR TFG社100%出資
事業内容:建設用クレーン等の販売、サービス

● オールテレーンクレーンのフルレンジ化の加速

40~400tの9機種をラインナップ
16年4月最大クラス600t(8軸車)をBauma展に出展、正式販売時期は未定



<米州事業の課題>

北米でのシェアアップと中南米の取り組み

● 米州グループ会社の概要

【TADANO America Corp.】

資本金:2.5百万USD TAHI社100%出資、所在地:米国テキサス州
事業内容:建設用クレーンの販売
代表者:社長 柿沼 陽、従業員:81人
売上高の推移:10年 78百万USD、11年 183百万USD、12年 249百万USD、
13年262百万USD、14年 305百万USD、15年 285百万USD

【TADANO Mantis Corp.】

08年に買収、資本金:287千USD TAHI社100%出資
所在地:米国テキサス州、事業内容:油圧伸縮ブーム式クローラークレーンの製造・販売
代表者:社長 森田 士朗、従業員:146人
主要製品:伸縮ブーム式クローラークレーン(履帯式の足回りを持つキャリアに油圧伸縮するブームを持つクレーンを組み合わせた製品)。主に土木・建設工事に使われ、不整地や泥濘地、トンネル内での作業などに適する。
売上高の推移:10年 16百万USD、11年 34百万USD、12年 39百万USD、
13年 36百万USD、14年 30百万USD、15年 40百万USD

【TADANO PANAMA S.A.】

資本金:1万USD 当社100%出資
所在地:パナマ共和国パナマ市、事業内容:建設用クレーン等の販売・サービス
代表者:社長 宗澤 賢二、従業員:4人

【TADANO BRASIL EQUIPAMENTOS DE ELEVACAO LTDA.】

資本金:30百万BRL 当社100%出資
所在地:ブラジル共和国サンパウロ州、事業内容:建設用クレーン等の販売・サービス
代表者:社長 永井 啓介、従業員:14人

※TAHI社は、TADANO America Holdings,Inc.の略。



15年03月新発売
タダノとの共同開発による
TMC初のラウンドブーム採用
・米国Lift and Access誌
2014年度 LE Award 受賞

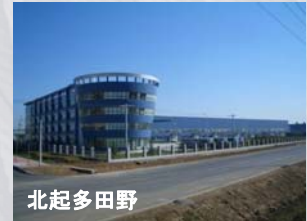
<中国事業の課題>

コストダウン・品質向上の実現、中国国内での拡販と中国からの輸出増。
事業環境悪化につき、評価損計上。

●中国グループ会社の概要

【北起多田野(北京)起重機有限公司】

資本金:30百万USD 当社50%、北京京城重工機械有限責任公司50%出資(設立03年3月)
所在地:北京市順義区林河(北京市街から約25km北西)
事業内容:トラッククレーン等の製造販売、8~100t吊りTC 8機種
総経理 内田 秀三(当社)、従業員 252人



北起多田野

【金天利多田野(河北)金属加工有限公司】

資本金:5.5百万USD 当社56%、アムロン5%、カワニシ5%、河北金天利34%(設立10年1月)
所在地:河北省涿州市開発区(北京市街から約60km南西)
事業内容:建機用金属加工部品(ブーム・ジブ・アウトリガ等)の製造販売
総経理 村上 照幸(当社)、従業員54人



金天利多田野

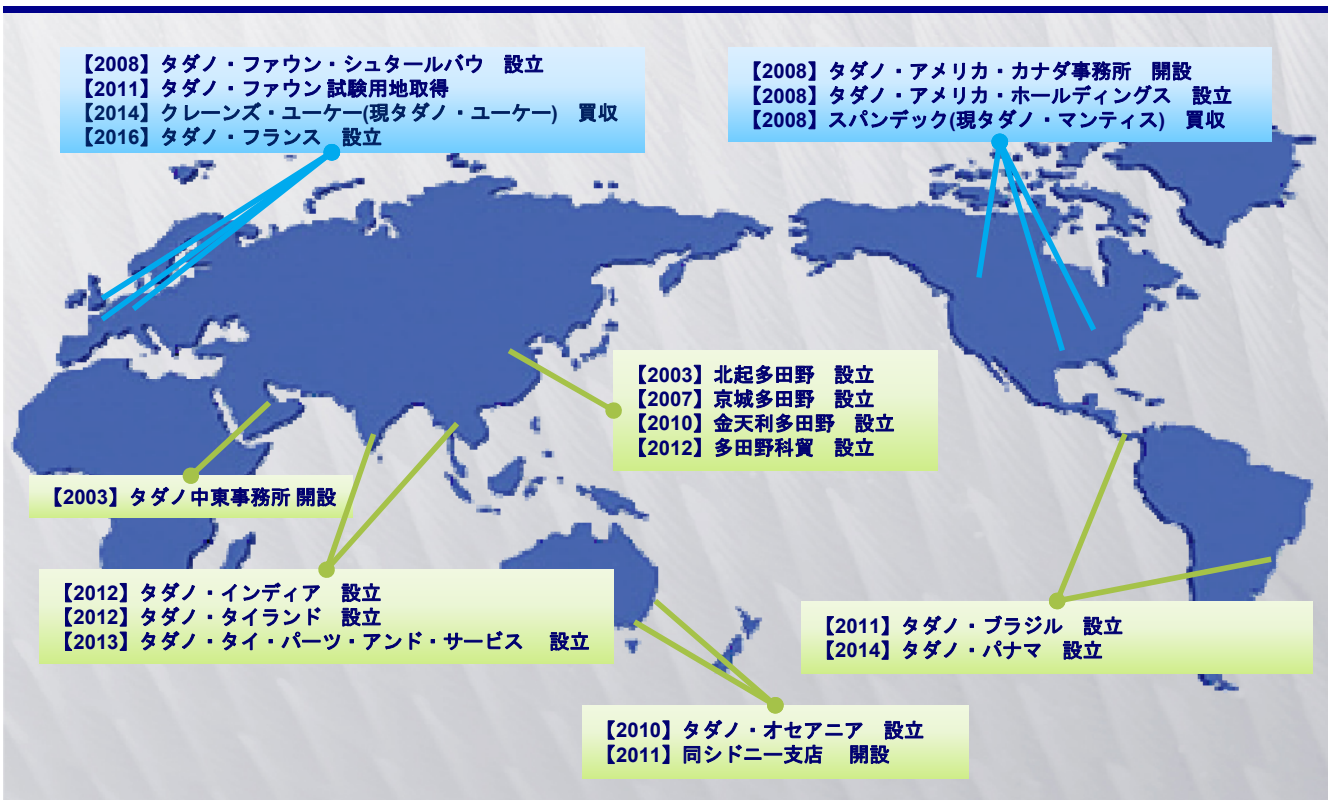
【多田野(北京)科貿有限公司】

資本金:5百万USD 当社100%(設立12年3月)
所在地:北京市朝陽区
事業内容:建設用クレーンの販売・サービス
総経理 金 虎林(当社)、従業員7人

【京城多田野(北京)液圧機器有限公司】 ※15年9月に清算決議

資本金:4百万USD 当社65%、三村鉄工5%、村上製作所5%、京城重工25%(設立07年9月)
所在地:北京市通州区(北京市街から約20km東)
事業内容:建機用油圧部品(バルブ、ロータリージョイント、小型シリンダ、配管等)の製造販売
総経理 村上 照幸(当社)、従業員7人

2003年以降の海外展開 ~15社設立・買収、4拠点新設~



車両搭載型クレーン



【カーゴクレーン】日本シェア 49.4%→48.6%

日本総需要 16,860台(15年度、当社調べ) 前期比 3.9%減
 ⇒需要若干減少のなか、拡販に注力したものの、
 売上高は、203億7千5百万円(前期比 97.8%)

- ・通常のトラックに架装した小型クレーン、貨物の積載・運搬・設置作業等が1台で可
- ・物流用途、造園業や建設業用途、トラックディーラーの间接販売
- ・小型・中型・大型トラック架装用に多数の機種 0.49t~4.9t吊り

- ～関係省庁～ ・主に厚生労働省(クレーンの規制)
- ～主な販売先と特徴～ ・トラックディーラー
- ・トラック需要に左右される傾向



初の「アイドリングストップ」機能をオプション設定

(海外展開) 15年度は売上高・販売台数ともに過去最高を更新

- ・カーゴクレーンの戦略市場向け輸出に注力。クレーン部を輸出し、現地にてトラックに架装。

14年度売上:11.4億円 → 15年度売上:16.8億円(初の800台超え)

- ・12年4月タイに製造子会社を設立し、海外展開を加速。



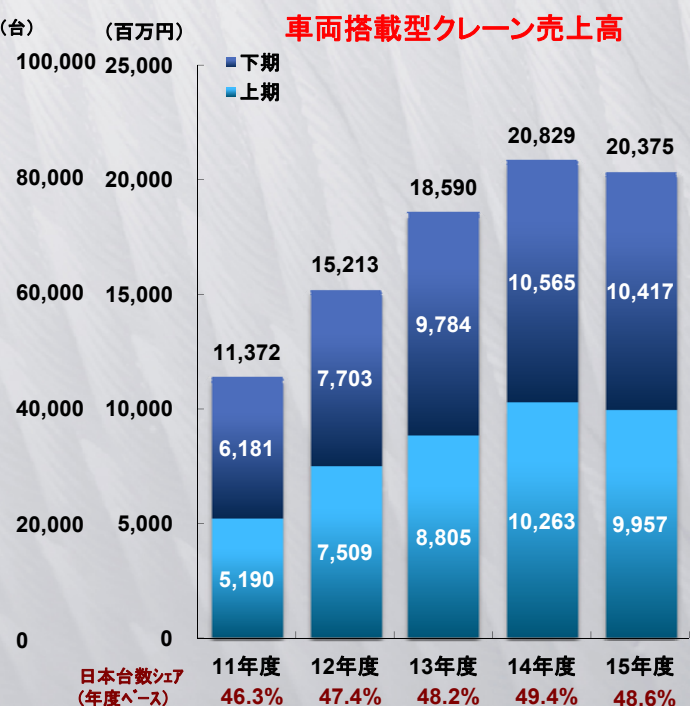
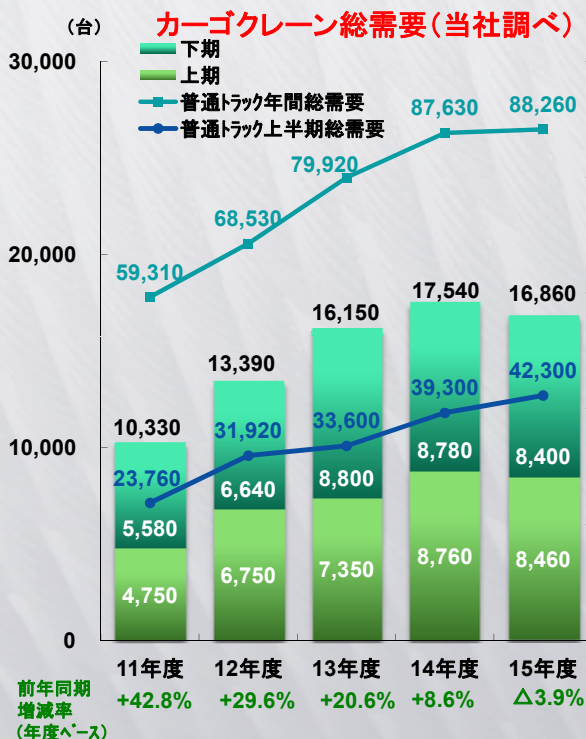
輸出カーゴクレーンZR560



スライドキャリア(車輛運搬車)



車両搭載型クレーン



【TADANO (Thailand) Co.,Ltd.】

資本金:310百万THB 当社100%出資
設立:12年4月(13年6月操業開始)
所在地:タイ国ラヨーン県ヘマラート・イースタンシーホード工業団地内
事業内容:カーゴクレーンの製造・販売
生産能力:1,000台/年
(販売台数:13年 38台、14年 258台、15年 418台)
代表者:社長 吉田 耕三、従業員:42人

- 建設用クレーン以外の初の海外生産拠点を設立。
本製造子会社設立により、海外展開をさらに加速
させるとともに、収益性の向上を目指す。



タイ工場で生産のカーゴクレーン ZT500



工場内



TADANO (Thailand)

日本シェア 40.2%→39.2%

トラック搭載タイプ日本総需要 4,137台 (15年度、当社調べ) 前期比7.7%増

⇒ 需要が増加するなか、レンタル業界向けの拡販に注力した結果、
売上高は、194億3千2百円(前期比 111.1%)で、**過去最高**

[トラック式]

- ・通信用 5機種、電工用 3機種
- ・一般工事用 13機種

[ホイール式] 2機種

- [スーパーデッキ] 5機種
(高度な制御技術を装備)

- [ブリッジチェッカー] 3機種
(高架道路や橋梁点検用)



ブリッジチェッカー BT-200

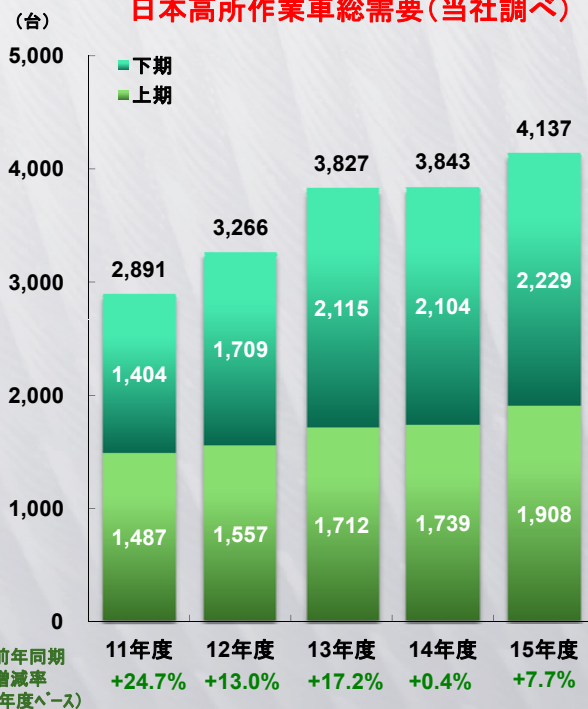
～関係省庁～

- ・主に厚生労働省(高所作業車の規制)

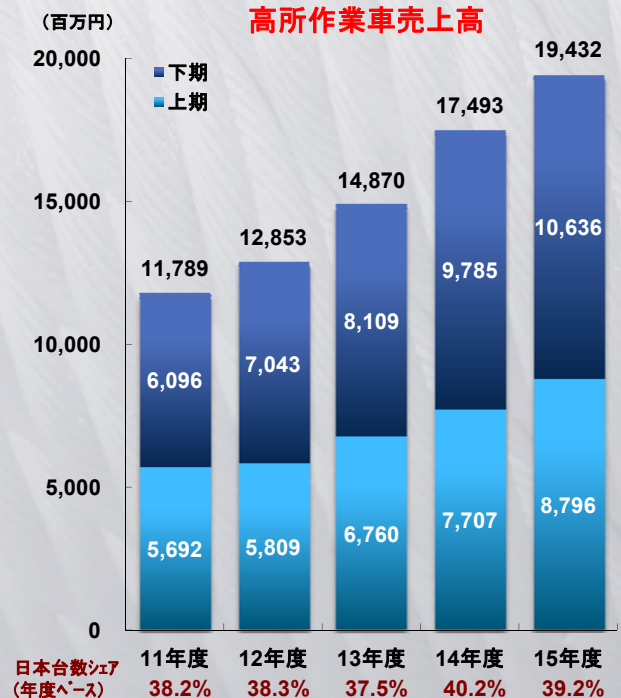
～主な販売先と特徴～

- ・電力電工、通信、レンタル、一般、造船、国土交通省
- ・当社は、高付加価値のスーパーデッキ及びブリッジチェッカーの販売に注力

日本高所作業車総需要(当社調べ)



高所作業車売上高



⇒ 部品、修理、中古車等のその他売上高は、280億8千4百万円(前期比 95.8%)

【中古クレーン】

- ・アジアでの輸入規制や経済減速・為替の影響を受け、輸出台数が落ち込み、価格下落。
- ・当期は、日本向け海外向けともに減少。
- ・今後はグローバル化に注力。

【部品修理】

- ・当期は、修理用の部品売上を計上
(修理は、主に指定サービス工場や海外代理店が担当し、指定サービス工場や海外代理店で売上計上)
- ・当期は、日本向け海外向けともに横ばい。



【オールテレーンクレーン着脱リフター】

- ・公道走行に際して、法令に基づき分解・搬送を必要とする日本向けオールテレーンクレーンの着脱用リフター



16年度業績予想



(単位: 百万円) 【16年度の経営方針】

	15年度		16年度予想		増減率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	209,426	100.0%	190,000	100.0%	-9.3%
営業利益	31,062	14.8%	20,000	10.5%	-35.6%
経常利益	30,680	14.6%	19,500	10.3%	-36.4%
親会社株主当期純利益	19,621	9.4%	13,500	7.1%	-31.2%

- ①コアバリューの追求「安全・品質・効率」
- ②中計(14-16)最終年度の仕上げと次期中計(17-19)の検討
- ③市場急落・競争激化への備えと対応

【中期経営計画(14-16)7つの戦略】

- ①基幹市場の拡充と戦略市場の拡大
- ②No.1商品の提供とラインナップの充実
- ③グローバル&フレキシブルものづくりへの取り組み
- ④感動品質、感動サービスの提供
- ⑤ライフサイクル価値の向上
- ⑥収益力のレベルアップ
- ⑦グループ&グローバル経営基盤の強化

1株当たり配当金	中間	13.00円	中間	13.00円
	期末	13.00円	期末	13.00円
	年間	26.00円	年間	26.00円

設備投資額	4,572百万円	8,500百万円
減価償却費	2,793百万円	3,100百万円
為替レート(USD)	121.05円	105.00円
為替レート(EUR)	134.31円	120.00円

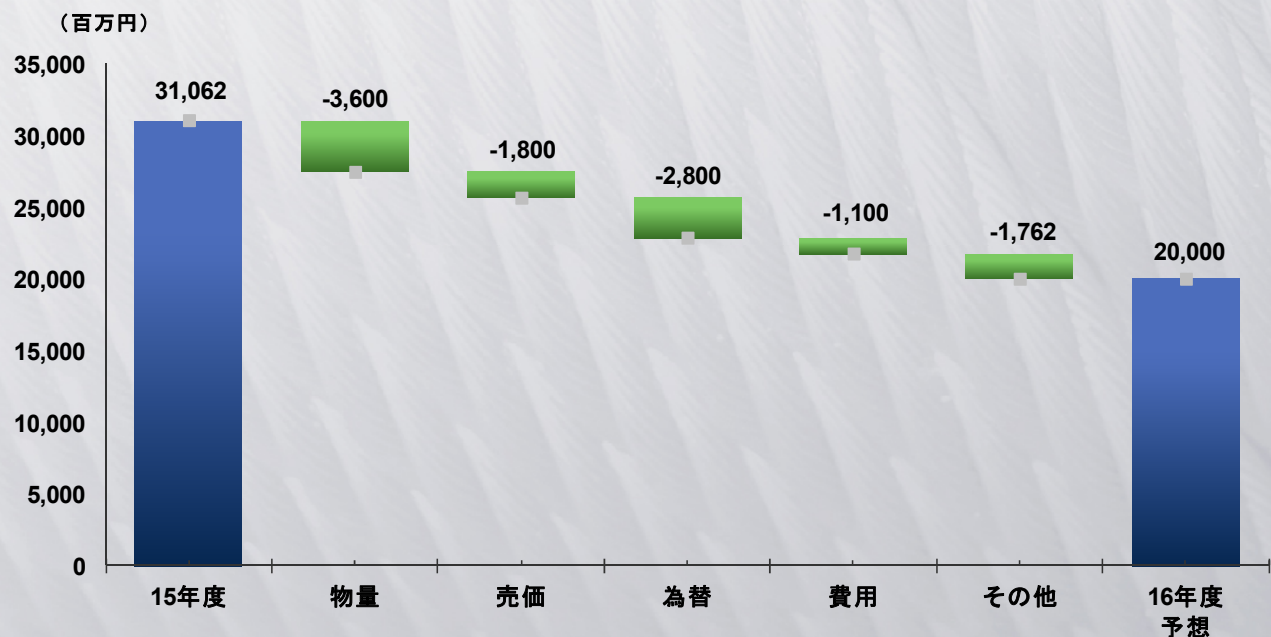
※設備投資額にはリース資産分を含んでおります。

◆16年度海外売上高比率 47.4%

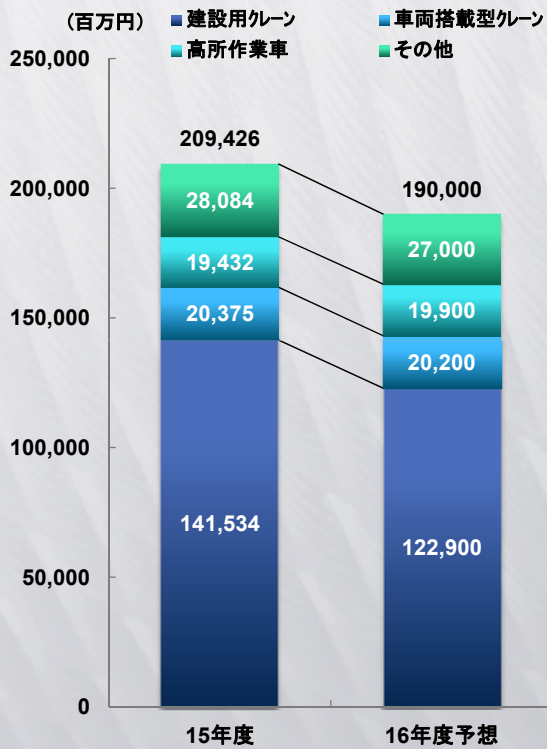
16年度業績予想(営業利益の増減要因)



物量影響や為替影響により、営業利益は110億円の減少。



16年度業績予想(製品別売上高)



(単位:百万円)

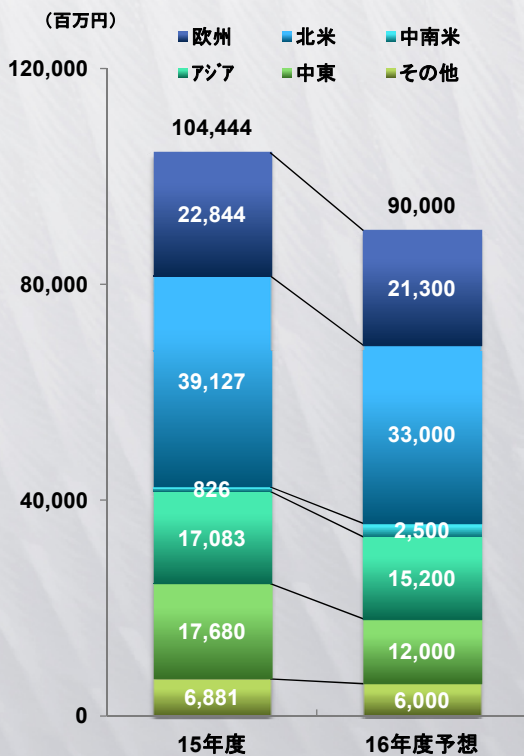
	15年度		16年度予想		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
建設用クレーン	141,534	67.6%	122,900	64.7%	-18,634	-13.2%
車両搭載型クレーン	20,375	9.7%	20,200	10.6%	-175	-0.9%
高所作業車	19,432	9.3%	19,900	10.5%	467	2.4%
その他	28,084	13.4%	27,000	14.2%	-1,084	-3.9%
合計	209,426	100%	190,000	100%	-19,426	-9.3%

◆海外売上高比率 49.9% → 47.4%

※建設用クレーン、日本向け及び海外向け売上高

	15年度	16年度予想	比較増減
日本	51,104	46,400	-4,704 -9.2%
海外	90,429	76,500	-13,929 -15.4%

16年度業績予想(仕向地別売上高)



(単位:百万円)

	15年度		16年度予想		比較増減	
	金額	比率	金額	比率	金額	増減率
欧州	22,844	10.9%	21,300	11.2%	-1,544	-6.8%
北米	39,127	18.7%	33,000	17.4%	-6,127	-15.7%
中南米	826	0.4%	2,500	1.3%	1,673	202.7%
アジア	17,083	8.2%	15,200	8.0%	-1,883	-11.0%
中東	17,680	8.4%	12,000	6.3%	-5,680	-32.1%
その他	6,881	3.3%	6,000	3.2%	-881	-12.8%
小計(海外計)	104,444	49.9%	90,000	47.4%	-14,444	-13.8%
日本	104,981	50.1%	100,000	52.6%	-4,981	-4.7%
合計	209,426	100%	190,000	100%	-19,426	-9.3%

※左のグラフには日本を含んでおりません。
 その他は、オセアニア、アフリカ、CIS。

◆香川県埋立地の購入申込み(2016年5月)

長期目標であるLE世界No.1の達成に向け、現在の志度工場に加え、建設用クレーンを製造する新工場が必要と考え、県が公募を開始した高松港香西(西)地区埋立地の工業用地の購入申し込み予定。

所在地: 香川県高松市香西北町
 面積: 約20ha(約6万坪)
 公募価格: 約24億円
 ※6月下旬、県の審査後に決定見込み

新工場の構想

目的	建設用クレーンの生産
建物延床面積	第1期工事(注) 約30千㎡ ※数年をかけて拡張する予定
投資額 (建物投資)	第1期工事 約100億円 ※拡張後の最終投資額 約200億円
従業員数	第1期 約200~300人

(注)第1期工事 2016年秋頃~2018年秋頃



2014年10月撮影
(香川県提供)

※高松中心部より西へ車で10分

- 2008/2 タダノ・アメリカ 事務所拡張移転
- 2008/10 日本市場向け製品に動態管理システム搭載
- 2009/4 タダノ・アジア シンガポールトレーニングセンター開設
- 2011/1 中部部品センター開設
- 2011/3 海外市場向け製品に動態管理システム搭載
- 2012/2 北陸部品センター開設
- 2013/3 タダノテクノ東日本 本社(新木場工場) 拡張 4億円
- 2013/4 タダノテクノ東日本 仙台架装センター 開設
- 2013/10 タダノテクノ東日本 真岡架装センター 開設
- 2014/5 タダノテクノ西日本 広島架装センター 移転
- 2014/7 タダノテクノ西日本 枚方工場 移転
- 2014/12 タダノトレーニングセンター開設 4億円
- 2015/6 首都圏部品センター開設
- 2016/5 タダノ・グローバル・パーツセンター(神戸) 開設
- 2016/6 タダノテクノ東日本 佐倉工場 拡張 11億円

※金額は投資額

今後は、海外における販売サービス拠点・部品デポの展開に取り組んでまいります。



タダノ・グローバル・パーツセンター外観
(神戸市ポートアイランド)